

## 7. 役割分担の大切さ

どこでも自治会や町内会では防災を担当するグループが組織され、避難訓練や講習会、情報交換などが実施されています。その活動には、地域のリスクの状況にもよりますが、熱心なところと、行政の下請け程度だったり、資格取得や申請に励んでいたりとさまざまです。この地域防災は、継続していくことが一番の基本で、会社のような組織での活動は無理ですが、住民への防災意識向上のために効率的な活動することは極めて重要なことです。確かに、任意団体であるので難しいところもありますが、役割分担を明確にして、これまでの知恵や工夫を活動に生かして欲しいと思います。

その基本は、情報収集、分析、評価、伝達ということになると思います。つまり、考える―実践する―評価する―維持管理を見据えて、各分担を明確にしておくと思いいます。こうすることで、相互の関係が明確になって、偏らないということや、日ごろからの関心が高まっていきます。往々にして、限られた人が主になって、他の人は言われるままでは水平的に展開することが難しいと思います。そして、大事なことは事前の備えと発災時の行動をいかに実践するのかということなのです。

それには、単なる知識だけではなくどのようなリスクが地域には存在して、そのリスクを改善できるのか、許容せざるをえないのかの峻別をして周知することが大事です。そして、実際の避難行動についても、綿密な工程を明らかにして、常に更新をし、修正や改善を試みる必要があります。そのために、行政との密接なコミュニケーション、避難場所の情報の入手、防災倉庫の点検補充なども大事になります。それから、外部からの講師を招いて防災講習会が開催されますが、できるだけ地域を切り口にするのを依頼し、自分たちの防災活動についてのアドバイスをもらうことを重視して欲しいと思います。要は、知識よりも、いかに安全に避難するのか、地域の人が情報を共有してチームワークでの行動が必要なことを知ることが大事です。このチームワークは避難のときだけではなく、その後の復旧や復興というときに大事な地域づくりの糧になるものです。行政はできるだけ事業を早く終了したいので、地域の文化や風土、事情を勘案しないことが多く、ガス抜きのようなことで済ます傾向があることも知っておきたいものです。地域づくりは地域住民が主役であるという自覚こそが次世代へつなぐ文化であります。最後に、町内会はボランティア、身を入れてやることでもないと思われがちですが、逆に役割を積極的にいただいて、関心を高め、さまざまな知恵や知識を周りから得て、より良い地域づくりに貢献できることのすばらしさを実感していただきたいと思います。